

実践報告

## 情報モラル教育における演劇的手法の導入

青柳 達也\* ・ 陣内 誠\*\* ・ 横尾 英樹\*\*\*  
浴本 信子\*\*\*\* ・ 中島 紀昭\*\*\*\*\* ・ 野崎 慎悟\*\*\*\*\*  
今村 一希\*\*\*\*\* ・ 角 和博\*

### Utilizing the Drama Method for the Internet Ethics Education

Tatsuya AOYAGI\*, Makoto JINNAI\*\*, Hideki YOKOO\*\*\*,  
Nobuko EKIMOTO\*\*\*\*, Noriaki NAKASHIMA\*\*\*\*\*,  
Shingo NOZAKI\*\*\*\*\* and Kazuki IMAMURA\*\*\*\*\*, Kazuhiro SUMI\*

#### 【要約】

佐賀大学の教員及び学生などが参画する特定非営利活動法人ITサポートさが（以下「ITサポートさが」という）の活動のひとつであるkodomo2.0プロジェクトは情報モラル啓発のために公演活動を行っている。一昨年度からは、子どもたちの情報モラル育成のために演劇的手法を取り入れ、佐賀県内の小学生、中学生、高校生による啓発劇団「KIDさが」が活動を始めた。本報告では「KIDさが」平成22、23年度、24年度の活動実践の詳細について報告する。

#### 【キーワード】

情報モラル, ドラマ教材, 青少年育成, 教育実践, 演劇的手法

### 1 はじめに

平成19年に発足した。ITサポートさが・プロジェクトkodomo2.0は、佐賀県内で情報モラル教育を行うことにより、ネットトラブルやサイバー犯罪から子どもたちを守ることを目的としている。その活動の一環として平成22年度から、情報モラル啓発劇の劇団員養成講座を開催し、佐賀県内の小学生、中学生、高校生による啓発劇団「Kidさが」を発足し、公演活動を実施している。

### 2 「KIDさが」の活動概要

平成22年度（表1参照）、平成23年度（表2参照）に佐賀大学においてワークショップ形式の情報モラル啓発劇の劇団員養成講座を開催し、その集大成として「Kidさが」の公演を実施した。参加した小学生、中学生、高校生、大学生は佐賀県内で公募された。

表1 平成22年度 劇団員養成講座と公演

日程	内容	場所
10/30 (土) 09:30~12:30	アイスブレイク, 身体表現, 台本読み合わせ,	佐賀大学
11/13 (土) 09:30~12:30	台本分析, 情報モラルについてのディスカッション, 配役	アイスクエアビル
11/27 (土) 09:30~12:30	キャラクター分析, キャラクター関係性のディスカッション	佐賀大学
12/4 (土) 09:30~12:30	劇の形をつくる, リハーサル	佐賀大学
12/5 (日) 09:30~12:00	サイバー犯罪から青少年を守るシンポジウムにて公演	佐賀大学

表2 平成23年度 劇団員養成講座と公演

日程	内容	場所
12/17 (土) 09:30~12:30	アイスブレイク, 身体表現, 台本読み合わせ	佐賀大学
1/7 (土) 09:30~12:30	台本分析, 情報モラルについてのディスカッション, 配役	佐賀大学
1/9 (月) 09:30~12:30	キャラクター分析, キャラクター関係性のディスカッション	佐賀大学
1/14 (土) 09:30~12:30	劇の形をつくる, リハーサル	佐賀大学
1/22 (日) 09:00~15:00	サイバー犯罪から青少年を守るシンポジウムにて公演	アバンセホール

平成22年度は小学生4名, 中学生2名, 高校生3名, 大学生4名が参加した。平成23年度は小学生14名, 高校生3名, 大学生4名が参加した。

4日間の養成講座の日程は集大成である公演に向けて計画された。筆者らが講座のカリキュラムの構成と指導を行った。

### (1) アイスブレイク, 身体表現

アイスブレイクとは参加者が表現をする際に, 心と身体の準備をする活動である。表現をさせるのではなく, 参加者自身が表現したいと思う必要がある。また, 思わせるような雰囲気を作らなくてはならない。

身体表現では, 演劇には必要とされる言葉・声, 身体, 表情を表現する練習をする。個々の個性を生かした, 様々な場面や状況での適切な表現, つまりは「信じられる」表現をお互いに実践し合いながら学んでいく。

### (2) 台本読み合わせ, 台本分析, キャラクター分析

台本を読み合わせをし, 内容を把握した後には, 更に劇の内容に限らず登場人物の分析を行うことが必要である。劇の中で, 気持ちや感情の変化がどこで起きるかを理解し, それに応じた演技の変化を与えることで, 演者同士だけではなく, 見ている観客にも伝わりやすくなる。また, キャラクターがとる行動の理由について考えたり, キャラクター間の関係性を想像することで, 演じることをリアルに感じることに繋がる。

### (3) 情報モラルについてのディスカッション

そもそもなぜこのような内容の劇を実施するのかを理解せずには, この活動をやる意味がないと言っても過言ではない。劇で紹介される問題点を定義し, そして解決方法や問題に巻き込まれない方法を考えることは, 参加者自身の情報モラルの知識を高めることになり, サイバー犯罪被害者としてのリスクが下がるような教育的効果が期待される。

## 2.2 啓発劇の内容

ITサポートさが・kodom2.0のメンバーから実際に子ども達が巻き込まれているサイバー犯罪の内容を紹介してもらい、筆者は7つの啓発劇を作成した。劇団員養成講座の参加者の男女比や人数を考慮した上で、平成22年度は4つ、平成23年度は3つの劇を作成した。

- (1) ファンサイト編：同じ小学校に通う仲良し3人組が携帯電話でインターネットを使い、アイドルの無料ファンサイトに登録をする。しかし登録後に高額な請求が送られてきて焦り出す。結局、対処法が分からずに両親に相談する。
- (2) 学校裏サイト編：中学の同級生2人は自分たちの通う学校の裏サイトを見つける。ネットは誰が書き込んだのか分からないと思い込んでいる二人は興味本位で同級生のことをそのサイトに書き込んだ。その後、そのサイトに誹謗中傷が集中し、書き込まれた同級生は登校拒否になってしまう。
- (3) アダルトサイト編：高校生2人が一緒に制限されていないパソコンでネットサーフをしている。しかし、怪しいアダルトサイトにアクセスしてしまい、突然パソコンの画面上に「会員登録完了。期限までにお金を振り込んで下さい」と表記される。一人で解決できないと思い悩んだ保は父親に相談し、母親には内緒でその大金を払ってもらうことになる。
- (4) 違法ダウンロード編：妹は姉が携帯にたくさんのお金を所有していることに興味を示す。姉は正規の楽曲配信サイトからダウンロードしていると言い張るが、実は違法にアップロードされている楽曲配信サイトからダウンロードしていた。妹と姉は楽曲を分けないことで喧嘩になる。お金を使わずに、たくさんのお金を所有していることが気になった母親は姉

に追求するが、黙り通す。

- (5) ネットゲーム編：小学生5人がWi-Fiが使える家庭に集まって携帯やネットが使える端末機器やゲーム機を使ってネットゲームをしている。ある1人が親のクレジットカードの番号を内緒で使うことでネットゲームの中のアイテムを購入する。発覚しないと思っていたが、後ほど請求が来て両親に追求される。
- (6) 著作権編：小学生が夏休みの宿題の読書感想文をインターネットで見つけたものを、軽率にそのまま書き写して提出してしまう。その読書感想文が県で最優秀賞になり、本当のことを言えないまま表彰を受ける。その後、読書感想文が盗作であるということが発覚し、周りの人達の目が恥ずかしくなり、その小学生は不登校になってしまう。
- (7) 携帯フィルタリング編：携帯電話のインターネットの使用には通常であればフィルタリングをしていけば、変なサイトにアクセスできない。しかし、高校生2人は、町の中に存在するホットスポット(パスワード無しでWi-Fiが使える場所)でWi-Fiを使えばフィルタリングを抜けられることを知る。そして、出会い系サイトを使い、知り合った人に駅前ですれ違おうとしていたところ、父親に見つかる。フィルタリングで安全だと思っていた両親はネットの危険性に直面する。

## 3.1 平成24年度の実践

平成22年度と平成23年度での活動では、「サイバー犯罪から子どもを守るシンポジウム」にての公演に加えて、県内各地の自治体が主催する情報モラルイベントにゲスト出演するなどの活躍をした。演者として参加する子ども達の情報モラルは高まり、シンポジウムやイベントに参加する観客の意識は少しずつ変化していると言えるが、実際に足を運ぶ数はまだ少ないと言

える。

そこで、公演数を増やすためには、学校や教育関係に携わる指導者の育成が必要だと考えられ「演劇を利用した情報モラル教育実践講座～情報モラル演劇ワークショップ～」を平成24年11月～平成25年1月に全4回シリーズの日程で実施している（表3参照）。

### 3.2 子どもの情報モラルを高める演劇的手法フォーラムの開催

上記に示した講座に加え、平成24年12月22日（土）に佐賀市のアバンセホールにて「子どもの情報モラルを高める演劇的手法フォーラム」を開催した。大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授である劇作家・演出家の平田オリザ氏の講演会や「Kidさが」による啓発劇の公演を行った。

#### (1) 「Kidさが」による啓発劇の公演

今回は、昨年度に参加した学生に加えて、新しい高校生1人を含めた15名が参加した。小学生7名、中学生2名、高校生3名、大学生3名により、一昨年度や昨年度の演目の中から4つの啓発劇（①ファンサイト編、②裏サイト編、③著作権編、④携帯フィルタリング編）

の公演を実施した。すでに、内容は理解している参加者がほとんどであったこともあり、3回の練習で本番にのぞんだ。

#### (2) 基調講演：「演劇によるコミュニケーション教育」（平田オリザ氏）

演劇の手法を活用した防犯などの様々な取り組みを実践されている平田オリザ氏は、大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授や文部科学省コミュニケーション教育推進会議委員（座長）を勤める。演劇とコミュニケーションの分野の第一人者として、日本だけではなく、世界各地で活躍している。

若者のコミュニケーション能力の低下がメディアで騒がれている中で、少子高齢化による社会の変化に伴い、コミュニケーション能力自体の低下ではなく、異世代との文化や価値観の違いがあからさまに表れてきた。日本人同士で分かりあえていたことを、「わかりあえないこと」を前提として、それぞれ違った意見や考えを擦り合わせる事が求められる世の中に変化してきた。そのようなコミュニケーション能力を育成する最適な方法は演劇であると、平田氏は語った。

表3：平成24年度 演劇を利用した情報モラル教育実践講座

日程	内容	場所
11/17（土） 09:30～12:30	身体表現：（仲間づくりに活かすとは？仲間づくり、アイスブレイク、コミュニケーション力の育成のコツ）	佐賀大学
12/8（土） 09:30～12:30	身体表現：（こどもの心を掴む仕組みづくりとは？表現力の育成、異文化理解、コミュニケーション力の育成のコツ）	佐賀大学
1/12（土） 09:30～12:30	台本読み：（相手の立場を理解する方法とは？テーマ理解、キャラクター分析、人物の背景等の読み込みを通じて進める他者理解の方法について学ぶ）	佐賀大学
1/19（土） 09:30～12:30	演出・構成：（子どもを輝かせる演出と構成とは？道具や衣装、音響・照明の見せ方、キャスティング、適正[直観]の見極めについて学ぶ）	佐賀大学

#### 4 まとめ

ITサポートさが・kodomo2.0は平成22年度から、情報モラル教育における演劇的手法の導入を行ってきた。演劇は古代ギリシャで始まったと言われており、その当時はモラル、道徳、倫理、哲学を観劇を通して学ぶ機会と場所であった。現代日本においても、古代ギリシャの原点同様に、演劇によりあるテーマを伝える手法が盛んに実施されるようになってきた一例が、本報告の取り組みであると言える。

演劇的手法では、演者と観客の両方が体験的に参加することにより、大切な伝えたい内容が記憶に残りやすく、与える影響が大きいと言える。しかし、まだまだ演劇による可能性が、特に教育において一般的に広がっているとは言い難い。先駆的に情報モラル教育において演劇的手法を本格的に導入したITサポートさが・kodomo2.0としては、これからも参加者数を増やす新たな取り組みへと進化していくことが求められよう。社会が求める演劇として期待できる。

#### 文献

- 1) 陣内, 浴本, 横尾, 青柳, 岩永, 山田, 野崎, 一瀬, 橋本, 石橋, 羽田, 中村, 角  
「情報モラル教育におけるドラマ教材開発と相談窓口設置『佐賀大学教育実践研究』第27号, 2011. 153-160
- 2) ITサポートさが, 「親子で学ぶ情報モラル啓発モデル事業 成果報告書」2011
- 3) 角, 陣内, 横尾, 浴本, 青柳, 池之上, 中島, 野崎, 今村, 石橋, 野崎, 羽田, 中村. 2012. 3 「市民活動kodomo2.0による家族のための情報モラル啓発活動」第9回情報コミュニケーション学会(青山学院大) 発表論文集, 84-85
- 4) 野崎, 陣内, 浴本, 横尾, 青柳, 今村, 羽田, 角 「大学生が参画するKodomo2.0のサイバー防犯活動の実践」『佐賀大学教育実践研究』第28号, 2012. 281-287
- 5) 古賀, 野崎, 角 「高等学校1年生への携帯端

末利用状況の調査に基づく情報モラル教育の検討」2012年 九州PCカンファレンス in 宮崎, 2012

- 6) Tatsuya Aoyagi, Makoto Junnai, Hideki Yokoo, Nobuko Ekimoto, Noriaki Nakashima, Kazuki Imamura, Reina Ishibashi, Kazuhiro Sumi, Takatoshi Nakamura  
Drama Approach to Teaching Internet Ethics for Children in Japan, Proceedings of International Conference on convergence content 2012, pp. 431-432
- 7) Kazuhiro Sumi, Makoto Junnai, Hideki Yokoo, Nobuko Ekimoto, Tatsuta Aoyagi, Noriaki Nakashima, Sinngo Nozaki, Katunori Nozaki, Takatoshi Nakamura  
Activities for Information Ethics by Citizen and Students to protect Safety and Security of Children Proceedings of International Conference on convergence content 2012, pp. 435-436

